

帰国研修員便り

【帰国研修員の現地活動状況】



母国（コソボ）で Work Shop を開催した帰国研修員の皆さん



アクションプランを発表中の帰国研修員（デェティさん）

- 1) 報告者： 末田 元（コースリーダー）
- 2) 現地レポート： Mr. DURAKU Vehbi
（コソボ帰国研修員）

2014年7月10日

（公財）北九州国際技術協力協会 研修部

～JICA/KITAの技術研修を終了後、母国で活躍されています 帰国研修員メンバーの現地便りを紹介します～

今回、ご紹介します帰国研修員便りは、昨年(平成 25 年)JICA国別研修コース「コソボ下水道対策能力向上」で勉強された研修員皆さんの母国での活動状況です。技術研修コースを担当された末田 元コースリーダーより帰国研修員皆さんの活躍状況を紹介して頂きました。

1.担当コースリーダーと帰国研修員の交流

《末田 元コースリーダーからのメッセージ》



研修員帰国後のある日、研修員の一人ヴェビさんからコーディネーターを通し質問が来ました。「ワークショップを開く予定だが、研修で受けた内容でわからないことがある。教えていただけないだろうか。」というものです。その質問に回答をすると同時に、「実施後のワークショップの内容を知らせてもらえないだろうか。KITA ニュース等で紹介したい。」旨お願いしました。要望を快く引き受けていただき、その後、メールのやり取りが何度も続きこの研修員便りができました。

改めてヴェビさんからのワークショップに関するメールを読みなおしてみても、素晴らしいワークショップが実施されたことに感動しています。コソボ国の水環境、特に下水道整備を何とか実施していかなければならないという研修員全員の強い思いがワークショップという形で表れたのではないかと思います。コースリーダー冥利に尽きます。発表した皆さん、窓口になっていただいたヴェビさん、本当にありがとうございました。また、ワークショップを支えてくれた JICA バルカン事務所の担当者にお礼申し上げます。

【今回、コソボ現地から便りを頂いた帰国研修員】



ヴェビさん Mr.DURAKU Vehbi	
国名	コソボ
研修コース名	下水道対策能力向上
研修時期	2013/10/17～ 2013/11/1

2. ヴェビさんが勉強されたJICA/KITA技術研修の内容

- (1) JICA研修コース名
 - ・和文 コソボ下水道対策能力向上
 - ・英文 Capacity Development in Waste Water Treatment Sector
- (2) コースリーダー 末田 元
- (3) 技術研修期間 2013年10月17日～2013年11月1日
- (4) 参加した研修員 8名

右表は、2014年1月にKITA Web Site で公開しました【コソボ下水道対策能力向上】コースの研修実績レポートの紹介記事です。
 ◆是非、クリックしてレポートをご一読下さい。



3. ヴェビさんからの便り

コソボ研修員のヴェビさんより、帰国後にワークショップを開催した旨の報告がありました。JICA/KITA研修コースで勉強された研修員全員(8名)によるプレゼンが実施されました。

ワークショップ開催

- 1) ワークショップの名称：「下水処理にかかるワークショップ」
- 2) 開催日時： 2014年3月4日 13:00～16:00
- 3) 開催場所： Prishtina (Capital City of Kosovo)
- 4) 参加人数： 60名以上
- 5) 参加者：
 - ①7つの地方水道公社 ②経済開発省 ③水・廃水監督局
 - ④コソボ政府の水特別対策本部 ⑤コソボ水協会 ⑥環境省
 - ⑦環境保護局 ⑧国立公衆衛生院等
- 6) プレゼン 各研修員メンバーが日本で勉強した技術研修と経験について発表した。
- 7) ヴェビさんコメント
 - ・ワークショップは大変好評であった。発表した研修員のプレゼンも参加者に貴重な情報が提供でき、大変満足な結果が得られた。
 - ・このワークショップを開催するにあたり、我々発表者は事前準備に真剣に取り組み、事前の打ち合わせ会を5回以上も持ちました。

・参加者からの評価

- ① コソボで経験した中で一番素晴らしいワークショップであった。
- ② 日本で研修を受けた研修員グループが発表するのを始めてみた。また、日本で受けた研修内容を共有することができた。
- ③ コソボからはヨーロッパに研修に行く人が多い。しかし、いままで誰もこのようなプレゼンテーションをしなかった。非常に良かった。
- ④ ワークショップの真剣さ、研修員が皆若いことに感銘した。

【帰国研修員(8名)によるプレゼンについて】

No.	報告者	プレゼンテーション	内容補足
1	Ms. Shahe Kukaj	コソボと日本の下水道	下水道システム：コソボと日本の下水処理場について
2	Ms. Myvedete Muja	日本における下水道の歴史	下水道システム：下水道と下水処理場について
3	Ms. Dafina Deva	日本における下水道施設の維持管理	下水道管の維持管理について
4	Mr. Nezir Gecaj	日本とスケンデラの下水処理場	下水処理場について
5	Mr. Beqir Vojvoda	水質検査室での分析	
6	Mr. Lumni Sallahu	日本における下水処理と汚泥処理	下水処理場と汚泥処理について
7	Mr. Lulzim Pacarizi	プリズレン市における下水処理	コソボ国プリズレン市における下水処理について
8	Mr. Vehbi Duraku	日本における下水道料金と資産管理	日本における下水道料金について
9	Mr. Lulzim Pacarizi	市民に対する下水道事業の啓発	下水道と下水処理場について



コソボ現地のワークショップで発表された帰国研修員の皆さん。当プレゼンにJICAコソボ担当/照井さんも出席されました。

【ワークショップ会場風景の写真集】



4. 第一回目のコソボ国別研修「下水道対策能力向上」コースを終えて

第一回目の研修後、本研修チームリーダーのシャハさんとJICA専門家の照井氏とで打ち合わせが行われ、次のような研修成果が得られたと報告がありました。

◆ 本研修全体の目的と期待される成果

【目的】：水公社の下水処理に係る技術・能力が構築される。

【成果】：①国内の下水処理に係る現状・課題が明らかになる。

②維持管理・計画・設計の知見が深まる。

③汚泥処理の基本的知識が得られる。

④下水処理基準が明確となり下水処理に係る指導書が作成される。



◆ 第一回研修で得られた成果・知識

主に成果①、②について研修員が各種講義、視察を通じて日本の事例を学び、理解を深めることができました。

～①に関連して～（国内の下水処理に係る現状・課題が明らかになる）

- 1) 河川の流域管理の必要性が認識できた（環境省に流域管理部署を設立することがアイデアとして出ている）
- 2) 下水処理普及率の改善の必要性が認識できた（僻地における普及率の改善が認識された）。
- 3) 住民の理解を深める努力が足りないことが認識された（広報活動による住民の理解を深める取組が提案された）
- 4) 下水道普及率の改善に向けた政府の取り組み不足が認識された（経済開発省で助成金制度設立を目指すことが提案された）
- 5) メンテナンスの必要性、能力不足が認識された（効率を上げる、これによって維持管理費など設備投資に係る費用を抑えられる、などについて理解できた）
- 6) 資産管理、料金設定に向けた課題が認識された

～②に関連して～（維持管理・計画・設計の知見が深まる）

- 1) 既存の下水管の修復の必要性が認識された。また、今後の維持管理にむけて、点検作業計画の策定や点検方法の確立、徹底の必要性が認識された

以上